

## 【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

### 済美小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 3 回生 川口 綾菜

1. 日時 2022 年 5 月 26 日 (木) 17:20~21:00
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ  
教育学専修 3 回生 中家 麻弥  
社会教育専修 3 回生 北野 結衣  
英語教育専修 3 回生 川口 綾菜、河野 木香、福西 隆生  
英語教育専修 1 回生 黒柳 新奈、山本 侑大  
特別支援教育専修 1 回生 神吉 優利奈、才田 優佳  
幼年教育専修 1 回生 田中 花璃

#### 4. 活動の概要

2022 年 5 月 26 日に奈良市青少年野外活動センターで、奈良市済美小学校 5 年生の野外活動の支援を行った。具体的な活動は、キャンドルファイヤーの準備・片付け、子どもたちの安全確保・活動支援、スタンプの実施などである。スタンプは三つ準備し、あわせて 20 分間、子どもたちと楽しんで行うことができた。

#### 5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、学生が子どもたちのお手本になることの重要性を学んだ。子どもたちのスタンプの際、学生が盛り上げたり、心の底から楽しんだりすることで子どもたちのお手本となり、子どもたちのキャンプファイヤーへの意欲を高めることにつながると考える。また、野外活動支援を行う中で、子どもたちの集中力が切れる場面が多く見られた。そのような中、学生がスタンプをしたり、一緒に楽しんだりすることで子どもたちの集中力を維持させることができた。この経験から、子どもたちのお手本となるような働きかけをすることで、子どもたちの意欲につながるということを学んだ。今回、学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたい。

(音楽教育専修 4 回生 佐藤ころろ)

私は今回の野外活動支援を通して、野外活動は子どもたちのことを考えて行うことが前提であるということを知ることができた。当たり前のように思っていたが、実際スタンプを考えていく過程では、スタンプを上手く作りたい、失敗したくないという気持ちが大きく、自分たちのことばかりを考えスタンプをすることに夢中になってしまうことが多かった。しかし、先生や先輩のアドバイスを聞いて、野外活動は子どもたちのためのものであり、子どもたちに分かりやすくするためにはどうすれば良いか、安全面はどう対応するのかなど、子どもたちのことを考えなければならないということに改めて気づいた。子どもたちのための野外活動であることを意識して、声掛けの仕方や安全面の配慮をもっと考えていく必要があると学ぶことができた。

(教育学専修3回生 中家 麻弥)

今回の野外活動支援を通し、盛り上げることの重要性を知ることができた。児童がスタンプを行っている際に盛り上げることはもちろん、私たちが行ったスタンプでも同様のことが言える。掛け声、歌声、ガヤ、手拍子、大きく動く等数えきれない程、盛り上げるといっても種類があることを学び、全体で楽しい雰囲気にするためには必要不可欠であると知った。今後活動していく上で、今回得た盛り上げ方とその必要性を忘れず、積極的に盛り上げていきたい。

(社会科教育専修3回生 北野 結衣)

私は、野外活動支援を通してスタンプの重要性を学んだ。今回スタンプの古今東西で失敗した子どもが泣いてしまうという場面があった。周りの子どもたちや先生が声をかけたが泣き止まず、もう参加したくないと言っていた。しかし、次の私たちのスタンプは子ども主体で気軽に体を動かせるもので、その子どもは満面の笑顔で参加していた。その後、自分のスタンプや再度行った古今東西でも泣かずに取り組み克服することができた。この経験から、スタンプは子どもを笑顔にしたりやる気にしたり成長させる効果があるのだと学んだ。

(英語教育専修3回生 川口 綾菜)

今回の野外活動支援を通して、小学生との接し方や声の掛け方など、支援する立場としての雰囲気づくりの大切さを学ぶことができた。野外活動支援に参加するのは初めてであり、スタンプをするにあたって大きな声を出したり、周りの小学生とコミュニケーションを取ったりするのが難しいと感じる場面も多々あった。しかし、自分なりに工夫したり、練習を繰り返したりするなど、改善しようと努力することの大切さを改めて感じることができた。この経験で得たことを忘れず、今後も様々な活動に取り組んでいきたい。

(英語教育専修3回生 河野木香)

今回の支援活動における自分の反省点として、スタンプを行う側も参加する側も気持ちよく活動するためにどうやって声掛けを行うかが挙げられた。普段と異なる環境で興奮しているのか、つい発言が乱暴になる児童や周囲の状況が見えにくくなっている児童が多く見られた。子どもたちの気持ちを冷めさせてしまうことなく、誰もがそれぞれの立場から相互に楽しみ、楽しませられるような活動のための声掛けを考えることが課題であると認知した。

(英語教育専修3回生 福西 隆生)

初めて野外活動支援をさせてもらったので不安もあったが、先輩方が丁寧に教えてくださったり、みんなが支えてくれたりしたおかげで成功させることができた。練習の時から色々学ぶことが多かった。奈良ユネスコさんのスタンプを見た時に自分にはできるか不安だったが、自分の担当スタンプのときに周りの方が掛け声をして下さったりしたので、私もすることができた。本番は練習では想定していなかったことが起きたり、小学生のスタンプをどう盛り上げるか、あまりスタンプに参加する気がなさそう

な子にどう寄り添って声かけをすれば良いかがわからなかったりしたりと、まだまだ学ばなければならないことも多いが、今回の野外活動支援で子どもたちが楽しんでくれたので頑張った良かったと思った。次の野活ではユネスコのスタンプ以外の部分でどのように対応したら良いのかを考え、より盛り上げられるようにしたい。

(英語教育専修1回生 黒柳 新奈)

今回、初めて野外活動支援に参加させていただいた中でたくさん学ぶことがあった。中でも私が特に難しかったと思うことは、スタンプに参加している子どもたちとのコミュニケーションだ。とてもはしゃいでいる子どもや、逆にぼかーんと上の空の子どもなど、多種多様な子どもたちとの意思疎通することに頭を悩ませた。そのため、次からは様々なパターンを想定して子どもたちと関わっていきたいと思う。また、子どもたちと上手に触れ合っていくには、ある程度場数が必要だと思ったため、またこのような機会があれば参加したいと思う。

(英語教育専修1回生 山本 侑大)

今回、初めて野外活動支援に参加させていただき、練習から本番まで学ぶことがたくさんあった。練習ではスタンプ自体の流れだけでなく、周りの子どもの反応も予想しながらの構想の難しさを学んだ。当日には、子どもたちが騒いでしまった時にどう対応したら良いのか、上手く参加出来ない子どもが参加しやすくなるにはどうしたら良いのか等、実際にやってみて発見した学びがあった。分からないことを先輩方が優しく教えて下さったり、参加した皆と協力して活動できたりしてとても良い経験になった。次回参加する時は今回の学びを活かしたい。

(特別支援教育専修1回生 神吉 優利奈)

正直、キャンプファイヤーの裏方をするのだと思っており、スタンプをしようと思っていなかったため、驚きから始まった。私は人前に立って話をしたり、指示を出したりすることが向いていないと思う。そのため、特別支援学校での勤務を考えていた。しかし、今回の野外活動を通して、人前で何かをすることに少し自信が付いた。また、特別支援学校だけに限らず、普通の小学校での勤務も視野に入れるようになった。自分の将来の選択肢を広げてくれた野外活動にとっても感謝している。また、支えてくださった先生、先輩方、同学年の仲間にも本当に感謝している。

(特別支援教育専修1回生 才田 優佳)

今回のボランティア体験では、練習時から多くのことを学んだ。特に、周りで声かけをする人がいて初めて場が盛り上がることを目の当たりにできたのが大きかった。場の空気は、私自身も含めてみんなで作っていくものであることを感じられた。本番は、ぼーとしている子どもや、馴れ馴れしく話してくれる子どもなど、色々な子どもがいるなかで、子どもとの距離感をどこに設定しようか悩んだ。どの子どもも安心できる空間作りを目指すことが、私の当面の目標だ。

(幼年教育専修1回生 田中 花璃)